

関東大震災から100年 一教訓を受け止め、災害への備えを

本日の避難訓練は、まずは地震があり、その後に火災が発生するという状況を想定してのものでした。避難訓練としては、今年度2回目となります。2回目の今回は、特に火災から身を守るための心構えや対処の仕方を実践的に学ぶことが大きな目的でした。

熊谷消防署から署員の皆さまに御来校をいただきました。先ほどは、はしご車やポンプ車を実際に動かし、救助の仕方を実際にみせていただきました。私どもの避難訓練に専門的なお立場から御指導いただけることは大変ありがたいことです。感謝申し上げます。

1923年9月1日、東京・神奈川を中心とする南関東で大きな被害を出した関東大震災が発生をしました。明日でちょうど100年となります。関東大震災では、主に火災により、10万人以上の方が亡くなられるとともに、東京や横浜では6割の家屋が破損し、多くの住民が家族と住居を失いました。関東大震災で地震のあとに大規模な火災が発生したのは、地震が発生した時間も影響したようです。午前11時58分でしたので、各家庭では昼食の準備をしているところでした。現代とは異なり、電気やガスではなく、火を起こしての調理です。地震がきてもすぐに火をとめることはできません。それに加え、家屋が木造建築であったことや、当日の風の向きや強さも影響したのだと思います。それから100年が経過した現代においても、地震のあとの火災は十分に想定しなくてはなりません。3週間ほど前には、ハワイ・マウイ島の山火事に起因する大災害が発生しました。人命や生活の根底を奪う火災の恐ろしさ、重大性を改めて実感しているところです。

火災から身を守る対処等については、昨年度も消防署の皆さまに御指導をいただき、消火器の使い方も含む初期対応の仕方を学習しました。2，3年生は覚えているでしょう。その際に御指導いただいたことは、火災の「煙」に注意することです。一酸化炭素を含む煙を吸い込むことで、一瞬で呼吸困難に陥り、命を落とすことが少なくないそうです。

本日の避難訓練の事前指導で、担任の先生から避難の際には「口と鼻をハンカチ等で押さえ、身を低くして避難すること」の注意を受けたはずです。その他、注意事項を繰り返し繰り返し確認することで、災害の際の準備ができるのだと思います。

私たちにできることは、災害に対する準備を行うことなのです。関東大震災が発生した9月1日は、「防災の日」に指定されています。過去の災害にしっかり向き合い、教訓を受け止め、いつか来るかもしれない災害に備えていきましょう。